

体育科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・体力調査の結果では、シャトルラン、50m走、握力、ソフトボール投げに課題がある学年が多かった。中休みや昼休みは、積極的に外遊びをして体を動かす児童が多いが、学年によっても差があり、全体的な体力・運動能力の向上につながっていない。
- ・「なわ跳び週間」では、異学年交流での教え合いを行うにより、どの班も技能の高まりが見られた。
- ・健康に関する知識を自分の生活と関連させて考える力は育ってきているが、実践しようとする力は不十分である。

体育科における調査結果の分析

	運動領域（技能）	保健領域（知識・理解）
低学年	反復横跳び長座体前屈は好記録。シャトルラン、50m走、握力に課題がある。	
中学年	立ち幅跳び、反復横跳びは好記録。シャトルラン、50m走、長座体前屈に課題がある。	生活・健康・体の発達について理解し、知識はあるので、実践できるように声をかけていく必要がある。
高学年	立ち幅跳びは好記録。握力、長座体前屈に課題がある。	心の健康・病気・けがの原因・生活習慣病についての知識は身に付いているが、実生活には生かされていない。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 児童が運動に進んで取り組むために、めあてを明確に示す。
→学習の最初にめあてを提示し、児童が理解した上で取り組ませる。ワークシートや掲示物も活用する。
→場の設定を工夫し、児童がめあてを達成する喜びを味わえるようにする。同時に、運動量が確保できるように、めあてに応じた活動の構成や時間配分も意識する。
2. 準備運動、予備運動の充実を図る。
→準備運動の中に、体づくりの要素を取り入れたり、鬼遊びを取り入れたりして体力の向上を図れるようにする。
3. 個々の技能を高めるだけでなく、チームワークを大切にすることを育てる。
→児童同士が励まし合い、教え合いながら運動に取り組めるようグループ活動を取り入れる。
4. 健康・安全に関する知識を実生活に生かせるようにする。
→早寝早起き朝ごはん週間や外遊び週間を実施し、正しい生活習慣や運動習慣を身に付けさせる。
→毎日の積み重ねで健康が維持できていることを実感できるよう視聴覚教材、掲示資料やワークシートを授業に取り入れ、自分の行動や生活について見直す機会をつくる。

体育科の授業改善策

- 低学年：** 体づくり運動や走の運動遊び・機械器具を使った運動遊びを充実させる。毎時間、授業の最初に鬼遊びを取り入れ、運動量の確保とともに体力の向上を目指す。また、簡単なきまりのある活動を取り入れ、楽しみながら基本的な動きをしっかりと身に付けられるようにする。
- 中学年：** 友達と協力しながら各種運動に取り組むことにより、特性に応じた技能を身に付けさせる。特に体づくり運動の充実を図ることで体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに基本的な動きができるようにする。また、体力向上を目指し、授業の最初には鬼遊びなどのゲームを取り入れる。健康・安全に関しては、知識・理解を定着させ、実践していける力を養う。
- 高学年：** 友達と協力しながら各種運動に取り組むことにより、特性に応じた技能を身に付ける。体幹を鍛えるために、特に体力を高める運動に重点を置き、学習活動を計画的に指導する。また、活動を工夫して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにグループ活動を充実させ、体力向上を図る。健康や安全については、知識・理解を定着させ、実践できるように、日常的な声かけを行い実生活と結びつけて考えさせる。
- いろいろな運動に意欲的に取り組むために**
- ・視聴覚教材や提示資料を使うなど、導入を工夫する。また、ワークシートを活用し、学習の見通しをもたせるだけでなく意欲を高められるようにする。
 - ・体育朝会や休み時間を活用し、全校で運動に取り組んだり、学級全体で一つの遊びや運動（一学級一実践）を行ったりする。
 - ・新規に購入したライトドッジボールを使い、苦手意識をもった児童にもボール投げの楽しさを味わわせる。
- 個々の技能を高め、チームワークを大切にすることを育てるために**
- ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達同士が積極的にアドバイスし合ったり、励まし合ったりできるようにする。また、学習カードを活用し、児童が運動の場や練習の仕方などを理解して、運動に取り組めるようにする。
- 健康への意欲を高める指導の充実を図るために**
- ・早寝早起き朝ごはん月間を活用して、児童に規則正しい生活習慣が身に付くようにする。
 - ・養護教諭、栄養士等の専門性を生かすなど教師間の連携に努め、衛生教育、食育の推進を図る。また、外部講師も活用し、保健指導や給食指導を継続的に行う。
 - ・外部講師を活用し、心の発達や病気・けがの予防、防止、薬物の危険性について意識の向上を図る。

